

### ⑤3 輪島港マリンタウンプロジェクト

受賞機関 石川県 奥能登土木総合事務所  
石川県 輪島市

<評価>

港のにぎわい創出の必要性や駐車場不足による交通渋滞等の課題改善のため、海面を埋め立てて旅客船の寄港できる岸壁、緑地、文化・スポーツなどの交流拠点及び住宅用地として整備を行った事業。海や港を中心とした魅力あるまちづくりを、官民一体となって展開した点が評価された。

はじめに

輪島港は、石川県能登半島の北部に位置し、沖合・沿岸漁業の基地として、また、避難港に指定され、海上の交通安全を確保する面においても重要な港である。周辺には、「輪島朝市」をはじめ、「白米千枚田」「總持寺」等があり、豊富な観光資源に恵まれている。

一方、輪島市街地では人口が密集していることから、イベント広場・都市公園やスポーツレクリエーション施設の不足、駐車場不足による交通渋滞等の課題を抱えていた。

事業の概要・成果

輪島港マリンタウンプロジェクトは、こうした課題を解決するため、海面を埋立て新たな土地を造成し、港を中心とした魅力あるまちづくりを目指して、平成5年から石川県と輪島市が共同で海面を埋め立て旅客船の寄港できる岸壁、海・港に親しむことのできる緑地、市街地の回遊を促進するための拠点、文化・スポーツなどの交流拠点及び住宅用地の整備を行い平成27年3月に完成した。

平成22年より先行供用している岸壁に、旅客船が寄港する際には「日本一のおもてなし」を目指して数千人の市民が参加する歓送迎イベントを行っており、このような取



輪島港マリンタウン

組みが、船社・乗船客から高い評価を得て「ポート・オブ・ザ・イヤー2010」を受賞した。また、観光交流施設「海の駅」では観光情報の提供や物産販売が行われており、競技場ではサッカー、陸上等の各種スポーツの大会や合宿が行われ、毎年3万人以上が利用する新たな交流の場となっている。さらに、平成27年3月の北陸新幹線金沢開業に合わせ、岸壁の隣接地に観光振興の核となる「輪島キリコ会館」がオープンし、みなとのにぎわい創出と交流人口の拡大に寄与している。

他にも「輪島大祭」「あわび祭り」「かに祭り」などのイベント会場となっており、多くの市民や観光客で賑わっている。

おわりに

今後も整備した施設を最大限に活用し、官民一体となって、にぎわい創出につながる取組みを行っていきたい。

賛助会員 いであ(株)

### ⑤4 環境に配慮した広島港LNG船ターミナル整備

受賞機関 国土交通省 中国地方整備局 広島港湾・空港整備事務所

<評価>

世界的にLNG（液化天然ガス）船が大型化しているなか、この港は小型船（2万m<sup>3</sup>級）での対応を余儀なくされていたため、世界標準船（17万m<sup>3</sup>級）に対応した航路・泊地の整備（浚渫事業）を行った事業。近隣で牡蠣養殖等多くの水産活動が行われているなか、汚濁シミュレーションや施工手順の工夫により大量の浚渫を短時間で完了させた点や、LNGの安定的な輸入が可能となった点が評価された。

はじめに

広島港廿日市地区は、LNGの輸送拠点として機能しているが、水深10mの既存ターミナルでは、世界標準型LNG船（17万m<sup>3</sup>級）への対応が困難なことから、輸送の効率化を図るため、供用中の水域施設を水深12mに増深する航路・泊地の整備（浚渫事業）を平成26～27年度の2カ年で行った。

世界文化遺産「厳島神社」に近い広島港廿日市地区は、牡蠣の養殖が盛んな海域であり、事業実施箇所が牡蠣の養殖筏に近接していることから、水産活動や牡蠣の生育に影響を与えないように工事を行うことが求められた。

事業の概要・成果

浚渫工事は、牡蠣の出荷時期を外した6月1日から9月30日での実施に制限された。また、環境への配慮から濁りはSS=10mg/L以下に抑えることとした。

このため、短期間で200万m<sup>3</sup>の大量な浚渫を実施する必要が生じたことから、施工性、経済性に優れたポンプ浚渫工法を採用し、濁り低減対策をとることとした。

ポンプ浚渫では、カッターヘッドを回転させて掘削した土砂を吸引しながら船を前進させていくことから、工事区域の長手方向へ浚渫していくのが通常である。しかし、



ポンプ浚渫船（船首部）の現場施工写真

これでは船尾方向に濁りが発生するため、濁り低減対策として、牡蠣養殖筏側に船首を向けて掘進することとした。その結果、作業効率は多少下がるが、短期間での大量浚渫工事でありながら、濁りを軽減することができた。また、浚渫部のカッターヘッド上部に「汚濁防止カバー」を艀装し、濁りの拡散を低減した。さらに汚濁防止膜の設置にあたり、潮流シミュレーションによる濁り解析を実施し、効果的な配置を行った。

これにより、2カ年のうちの延べ6ヵ月で浚渫工事を無事完了させ、平成28年1月に第1船入港を迎えることができた。

おわりに

本工事によって、牡蠣の養殖筏に近接した箇所での大規模な浚渫工事の環境配慮事例として寄与できる成果を得た。